

中国における家政学・家庭科教育の必要性とその課題

— 日中国民生活の比較分析を視座とする —

静岡大教育 ○ 楊彬 村尾勇之

目的 日中両国の国民生活の比較を通して、中国全社会に家庭生活、家族問題の研究の重要性に注目させ、家庭生活の課題を解決する能力を養成の必要を少しでも明らかにしたい。また、生活の本質と人間環境について十分に理解できるために、中国における家政学・家庭科教育を推進させ、中国全社会の生活をもっと高い水準へもっていくための一つの契機になれば幸いである。

方法 第2次世界大戦後の日中両国の国民生活諸指標の比較研究を通して、両国の国民生活の推移と生活意識の違いを捉える。しかし、日中両国の経済体制が異なるため、その生活水準について単純に比較することはかなり困難である。ここでは、現在日本で用いられている指標体系に基づいて、両国に共通するまた家庭生活に関連する項目を調整し、「家計生活」「家族生活」「社会生活」「生活意識」の4つの分類で行うことにした。

結果 日本と較べると現在中国の国民の生活はまだ豊かになっていないと言える。同時に、男女共働きの割合は高いが、社会サービス諸施設がまだ不十分であり、生活環境と労働環境の調和のとれた改善が必要である。この課題を進展させ、世界の人口の1/5を占める中国国民の生活水準を高めるために家政学・家庭科教育の展開を図ることは大変重要なことであると考えられる。ここでは、新中国以前にあった家政学を総括し、現在の中国の国情に適合した家政学・家庭科教育体系について一つの試案を提示したい。